

経営比較分析表

静岡県 御殿場市

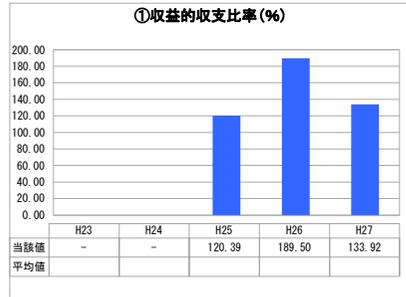
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	該当数値なし	0.43	100.00	3,880

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
89,338	194.90	458.38
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
378	1.16	325.86

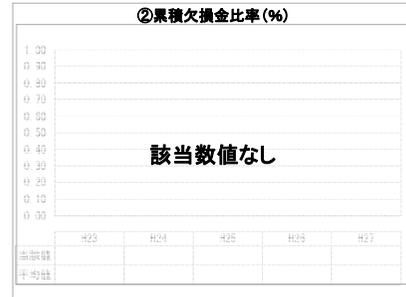
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

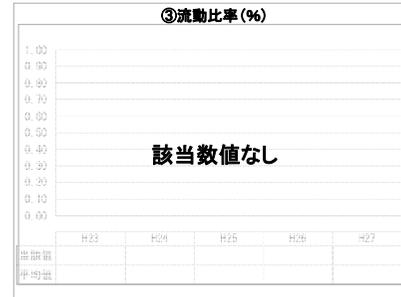
1. 経営の健全性・効率性



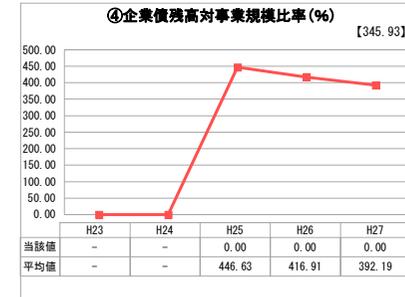
「単年度の収支」



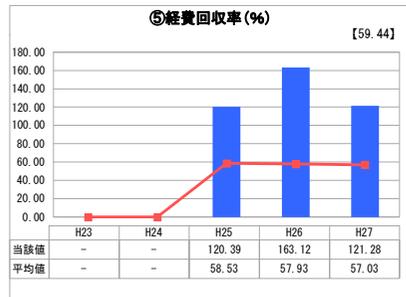
「累積欠損」



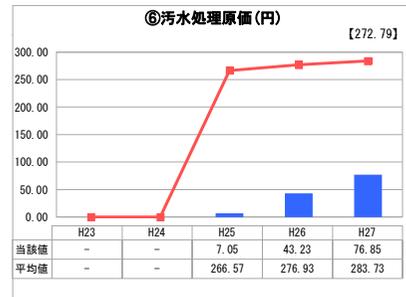
「支払能力」



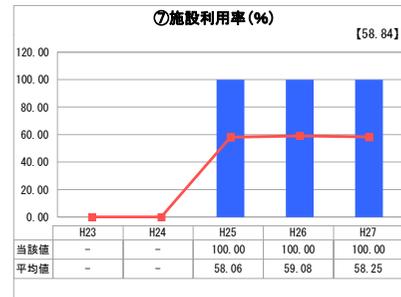
「債務残高」



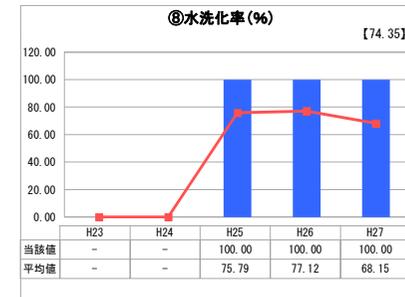
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

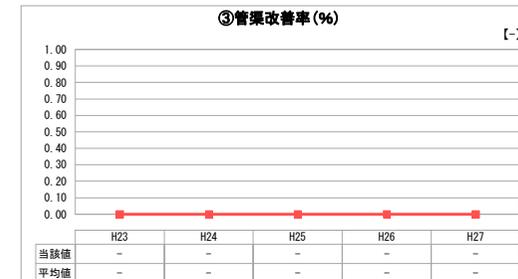
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

御殿場市公設浄化槽整備事業については市債による借入れは行わず、国や県からの補助と事業の対象地域にある一般社団法人からの寄附で造成される基金を主な財源としている。

御殿場市公設浄化槽整備事業は平成27年度の収益的収支比率が133.92%、経費回収率が121.28%と高い値になっている。これは以下の2点の理由によるものである。

①次年度に行う浄化槽の保守点検、清掃及び法定検査等に係る費用を使用料として月割りで徴収している。

②浄化槽使用開始後3～8か月後に行うことが法律で定められている法定検査の費用を設置前に徴収している。

実質的な収益的収支はほぼ拮抗するものになると考えられる。

平成27年度の汚水処理原価は平成26年度の約1.7倍になっている。これは平成26年度に供用開始した浄化槽に浄化槽法で決められた年1回以上の清掃を行う時期が来たことにより清掃費用新たに発生したため汚水処理原価が上昇したものである。

2. 老朽化の状況について

公設浄化槽整備事業は平成25年度より整備及び供用を開始した。このため最も古い浄化槽でも経過年数が3年を経っていないため、老朽化は維持管理上問題となっていない。

全体総括

公設浄化槽整備事業の資本的収支については全支出を国や県からの補助と「1. 経営の健全性・効率性について」で述べた基金等で賄っている。収益的収支についても支出を使用料で賄っている。そのため、現在は健全な経営が行われているといえる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。